

二〇二〇年一月一日(参加者二四名)

山眠る灯ともりみたる間歩の奥	よう子
頂に老人ホーム山眠る	董雨
背の高き孫が頼みや煤払	はく子
贗作の応挙の軸の煤払ふ	よし子
襷かさね重ね吉野の山眠る	菜々
煤払ひ木喰仏の指の反り	かかし
炭窯を抱きクヌギの山眠る	小袖
朝靄に溺るる如く山眠る	たか子
夫をりしままの調度や煤払ふ	うつぎ
天辺は城の石垣山眠る	こすもす
煤逃げの夫に買物頼みけり	もところ
地崩れの瑕癒えぬまま山眠る	ぼんこ
神棚は長子の役目煤払ひ	菜々

煤逃げの夫に家苞頼みけり	うつぎ
煤払ひ電波時計は狂ひなし	かかし
住職の姉さんかぶり煤払い	よう子
槍のごと煤竹構ふ武将隊	なつき
煤払い几帳面さは夫に勝てず	明日香
一日に一本のバス山眠る	うつぎ
煤払ひ御堂千畳開け放ち	菜々
命綱頼みにビルの煤払	なつき
腰痛をなだめなだめて煤払	やよい
墨池のごとき隠沼山眠る	せいじ

WEB句会みのる選・二〇一九年十二月一日